



こんな大きなホヤ初めて

5月中旬、天然のホヤ漁が解禁すると同時に毎日のように、堀内漁港から一人で操業に出ていた堀内の新屋歳己さん(49)。18日のこの日も陸から2分ばかりの沖合でホヤ漁を開始しました。まもなく、いつもの感触とは大きく違うホヤを引き上げ、その大きさと重さにびっくり。ホヤは30個余りもくっつき合った

20kgほどの大物でした。

ホヤは普通6~7個、多くても10個ぐらいのかたまりで群生しています。新屋さんは、「水際からようやく船に引き揚げましたが、その大きさにたまげ(びっくり)ました。ホヤ漁を始めて2年になります、こんな初めてです」と、堀内小学校に通う4年生の息子、康太君にホヤの重さを確かめてもらいながら、うれしそうにホヤを見つめていました(写真)。

六月十八日、鳥茂渡小学校(菅原伊保校長・児童十四人)では「バランスよく食べよう」と題して、学校栄養士の宇部順子さん(四七)を招いて講話を開きました。



講話会は、児童、保護者ら約二十五人

『わんぱく坊主育成講座』 食事はバランスよく

が参加、同校の体育館で行われ、食べるということをテーマに

「学校給食はバランスよく食べるといふことで、赤、黄、緑をまんべんなく取り入れて残す残す、体の調子を整える野菜が残つてきます」と、残念そうに口火を切った宇部さんはパネルで栄養について説明。食べることは「①丈夫な骨を作るために②活動するエネルギーを作り出すために③生き生きとして、しっかり考えることの出来る心の豊かな人間になるために」と、三つの約束ごとについて優しく語りかけました。

最後にこんだてクイズに全員で挑戦し講話を終えました。

地域を花で飾りましょう

「三陸花の回廊・フラワーロード45」は、ふれあい交流センター横の広場で上区、中央区から約五十人が参加して六月二十二日、三陸・花と水の回廊推進協議会(会長・熊坂義裕宮古市長)主催で行われました。

事業は、沿岸の十八市町村、四地方振興局、三陸国道事務所で組織。沿岸市町村の道路、国道45号の歩道上などに花を植えたプランターを設置し、沿岸各地を「フラワーロード」として飾るものです。



「三陸花の回廊・フラワーロード45」は、ふれあい交流センター横の広場で上区、中央区から約五十人が参加して六月二十二日、三陸・花と水の回廊推進協議会(会長・熊坂義裕宮古市長)主催で行われました。

事業は、沿岸の十八市町村、四地方振興局、三陸国道事務所で組織。沿岸市町村の道路、国道45号の歩道上などに花を植えたプランターを設置し、沿岸各地を「フラワーロード」として飾るものです。

美しい村づくりは、一人ひとりの意識から生まれるものだと思えます。「住んでよかった、住みたい村」を目指して、村民一丸となり頑張りたいものです。

マリゴールドやペコニアなど六百株ほど用意された花苗は、プランター

二百個に植えられ真Ⅱ国道45号に並べられました。赤やオレンジの花びらは初夏の風に揺れながら、道行く人の微笑を誘っていました。

村内各地区で花植